

〈特集1〉

ふるさと納税で魅力発信

ふるさと納税は、全国の人が応援したい地域に寄付をしたときに、そのお礼としてその地域の特産品を受け取れる制度で、教育や福祉、環境といった寄付の使い道を選ぶことができます。寄付はインターネット上のポータルサイトを通じて行われ、サイトにはさまざまな地域の特産品がネット通販のように並び、事業者にとって手軽に自社商品をPRできる場でもあります。特集では、ふるさと納税の制度に参画して、自慢の一品を全国への発信や観光誘客に取り組んでいる事例を紹介します。

●寄付申し込み状況〈平成20年6月～令和5年3月〉

件数 26,809件 金額 484,526,908円

〈内訳〉

事業	件数	申込金額(円)
教育・文化づくり	5,198	90,386,008
保健・医療・福祉づくり	3,111	72,592,000
自然環境づくり	3,532	62,694,000
都市基盤・生活環境づくり	757	13,214,000
産業づくり	1,251	25,895,000
パートナーシップづくり	124	1,836,000
市長一任	12,673	206,431,500
クラウドファンディング(2事業分)	163	11,478,400

利 根沼田で採蜜した黄金色に輝く天然の蜂蜜。糖度80度を基準とし、優しい風味と甘味が口に広がります。北海道から九州まで、ふるさと納税の返礼品として申し込みを受けています。1947年に開業。多くの人に届けようと販路を模索していた近藤みゆきさんは、2016年、市のふるさと納税返礼品提供事業者の説明会に出席しました。制度は駆け出しの段階。仕組みにやや難しさを感じながらも、市などのサポートを受けながら準備

を進めていきました。同年9月に商品2点を登録。最初の数年の申し込みはわずかでしたが、登録から約4年が過ぎた頃から、ふるさと納税返礼品の申し込みが増え出しました。全国的に寄付が多い12月は、同社も最も申し込みが多いといえます。今年6月には、ギフト用で、書家の金澤翔子さんによるラベルのアカシア蜂蜜の返礼品を追加で登録。近藤さんのお婆、故・坂井幸恵さんが金澤さんのファンだったことから、約10年前、県内の百貨

蜂蜜好調 沼田の恵み凝縮



真心込めて販売する近藤さん（前列中央）と従業員の皆さん

(株)坂井養蜂場

—高橋場町—

代表取締役 近藤みゆき さん



右から/金澤翔子さんの力強い筆遣いのラベル。通常販売でも人気/巣箱から巣枠を取り出す。巣に蜜蓋がされると蜂蜜が完成



店で行われた金澤さんのイベントに近藤さんが訪れ、ギフト用にラベルを依頼しました。近藤さんは「お婆の思いがラベルとなって、お客さんに届けられている」と笑顔。今では、ふるさと納税の申し込みから発送作業などの一連の流れにも慣れ、ポータルサイト更新手続きも着々とこなします。サイトに他社の蜂蜜の登録が多くあるにも関わらず、自社の製品が選ばれていることでより自信を持てるようになったそう。「利根沼田の味を全国に届け、地域のお役に立ちたいです」と期待を膨らませます。